

教育総研ニュース

発行：一般財団法人 教育文化総合研究所

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 日本教育会館内

TEL:03-3230-0564 FAX: 03-3222-5416 <http://www.k-soken.gr.jp>

No.56
2021.3.15 発行



「新型コロナウイルス」が暴いた不都合な真実

教育文化総合研究所 所長 菊地栄治

新型コロナウイルスの感染拡大は依然として予断を許さない状況にあります。ワクチン接種の目処がつき始めたと思ったのもつかのま、抗体が働きにくい変異株も見つかり始めています。SARS-CoV-2も生き延びようと必死です。政府の対応は「休校宣言」「GO TO キャンペーン」を除けば常に後手後手…。医療崩壊寸前です。そんな中で医療・介護従事者、保育・教育関係者などケアにかかわる人々をはじめ、いわば「命をつなぐ」労働者によって私たちの社会は辛うじて持ちこたえています。1年にわたるこの現状は、さまざまな「不都合な真実」を教えてくれました。

ひとつは、「人間の傲慢さ」です。行きかう人々のだれしもがマスクをせざるを得ない目の前の光景…。共通の脆さこそが本来人類が立ち返るべき地点なのかもしれません。この原事実を見落とすことで、人間は他者に対して横暴になったり差別的になったりするのではないのでしょうか？（「自助・共助・公助」「最終的には生活保護」等々…。）傲慢さの権化のような男性たちが政治的な指導者となり、政治がそのように歪むほどに新型コロナウイルスの犠牲者が増えているという忌まわしい法則があるようです。経済はケアやケア労働をどこまで大切にしてきたのか…という根本問題にもつながります。

もうひとつは、「社会の不条理」です。生命を犠

牲にしても「まわすべき経済」とはいったい何なのでしょう？ たくさんの二酸化炭素を排出することが幸せな経済なのでしょうか？ 経済は万人が幸せになるための道具であって、生命圏を破綻させたりだれかを不幸にしたりする道具ではないはず。新型コロナウイルスは格差と貧困もいっそう切実に浮かび上がらせています。失業は二酸化炭素排出量という点では最大の社会貢献なのに、なぜ生存保障が危うくされなければならないのでしょうか？ 国政選挙の一票の格差はせいぜい2倍以内なのに、可処分所得の格差が天文学的に拡大しても咎められないのはなぜでしょうか？ 差別的・抑圧的なほど過剰な富を所有する者にイエロー・カードを出すAIを開発してほしいものです。

子どもたちにはこの状況がどう映っているのでしょうか？ 自然災害を人災にしつつあるこの国で、「人間の傲慢さ」と「社会の不条理」を自分事としてもう一度考えてみては？ 小さなウイルスはそんなふうに大人たちに問いかけているような気がしてなりません。今年度はこのような状況下で、総研としての研究成果を還元させていただく活動が不十分な状態にあることをお詫びさせていただいた上で、この2つの視点を軸に総研の「これから」をみなさまといっしょに考えてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。